

「地図豆」の地図を広げて街歩き

## 96-1 市川弘法寺と真間の継橋し (3.5km)

市川市の「文化のまちかど回遊マップ」を手にして、伏姫桜の弘法寺と万葉集にも詠われた真間の継橋しなどへ向かう。



弘法寺鐘撞堂

**【道順】** JR 市川駅→いぼとり地蔵→市川真間駅→桜土手へ→桜土手（公園）→須和田公園へ→芳沢ガーデンギャラリー→亀井院真間の井→手児奈霊神堂→真間の継橋→弘法寺（くほうじ）→木内ギャラリー→国府神社→京成国府台駅

### 【街歩き解説】

**市川駅周辺から市川真間駅**：国道14号線千葉街道を渡るとすぐ目につくのが、湯浅四郎樹商店。魚や乾物、雑穀を商う店内をのぞいて見るのもいい。そして目にとまるのが、市の木でもあるクロマツと割烹料理店だ。戦前には、東京下町の富豪が市川に別荘を構えたこともあったからだろうか、辺りには大きな割烹料理店が何軒かある。

京成電鉄市川真間駅近くにある地蔵山墓地は、松林に囲まれ、敷地中央には、「いぼとり地蔵」と呼ばれる延命地蔵がある。

**桜土手へ**：かつて、市川の住宅地にはクロマツが広がっていたという。真間銀座通りには、人の通行を遮るような場所に松の古木が二本大切に残されている。そして、真間1丁目交差点の向こうには、これも往時を思わせる大きな邸宅が見える。

**桜土手（公園）**：桜土手（公園）の道の片側には、桜の巨木の並木が続き、手軽な散歩コースとなっている。そして、市川で暮らしたことのある北原白秋や永井荷風、水木洋子

といった文化人や、ゆかりの万葉の歌を紹介した説明板が随所に立ち文学の道とも呼ばれている。

**須和田公園へ：**西進して江戸川へと注ぐ真間川は、桜の名所としても知られている。真間川笹塚橋を渡り、ハケを上る階段道を上って段丘の上へと向かうと市街が一望できる。上り詰めた、（須和田台）段丘上の柵内には、縄文時代から平安時代に至るまでの集落遺跡が残されていて、全体が公園として整備されている。須和田公園の春は、桜の名所となる。

須和田公園の西には、芳澤ガーデンギャラリーがある。同所は、庭園をいかした美術館として開設され、広い庭園は、よく手入れされた四季折々の草花や樹木で満ちている。

**亀井院 真間の井：**万葉集で高橋虫麻呂が「勝鹿の真間の井を見れば立ち平し水汲ましけむ手児奈し思ほゆ」と詠んだ。山部赤人もまた「われも見つ人にも告げむ葛飾の真間の手児奈が奥津城処（墓所）」と。この真間の井は、亀井院の裏庭にある井戸だと伝えられる。門前手前には昔懐かしい八百屋さんが残る。



手児奈霊神堂・真間の継橋

**手児奈霊神堂：**手児奈は、その美しさゆえ、多くの男から求婚され、自分のために人が争うのを憂い、真間の入江に身を投げたという。山部赤人などによって歌われた手児奈の墓のあたりに安産、子育ての靈験がある靈堂が建つ。

**真間の継橋：**万葉の時代、この地域にはたくさんの砂州があり、その州から州へのかけ橋が「継橋」だったと考えられている。また、継橋は後世多くの歌人の題材になった。足（あ）の音せず行かむ駒（こま）もが葛飾の真間の継橋やまず通はむ（万葉集）かつしかや真間の入江にさちあれと柳ながめてのせぬ舟人（小林一茶）

河成低地は扇状地平野、自然堤防型平野、三角州平野に区分される。埼玉県と東京都の境辺りが自然堤防型平野と三角州平野の境界にほぼ等しく、この上流で自然堤防の高

まりや後背湿地が明確になる。他方、この南ではこれが不明となると同時に、砂洲・潟などの海の作用による地形がみられる。市川市市街のこの辺りは、この砂洲と潟（ラグーン）がつくる低湿地であった。

関東地方の小さな砂洲は、ほかに足立区の興野・島根・加平付近一帯、上野をつけねとして根岸から千住に伸びるもの、日本橋から浅草に伸びるもの、向島から北十間川に沿い江戸川区新川から浅草に伸びるものなどがある。

**弘法寺（ぐほうじ）**：弘法寺の参道は、市川駅付近からまっすぐに延びている。上り詰める参道石段の正面下から27段目にある石は、涙を流すかのように濡れ続けていることから「涙石」と呼ばれるのだという。

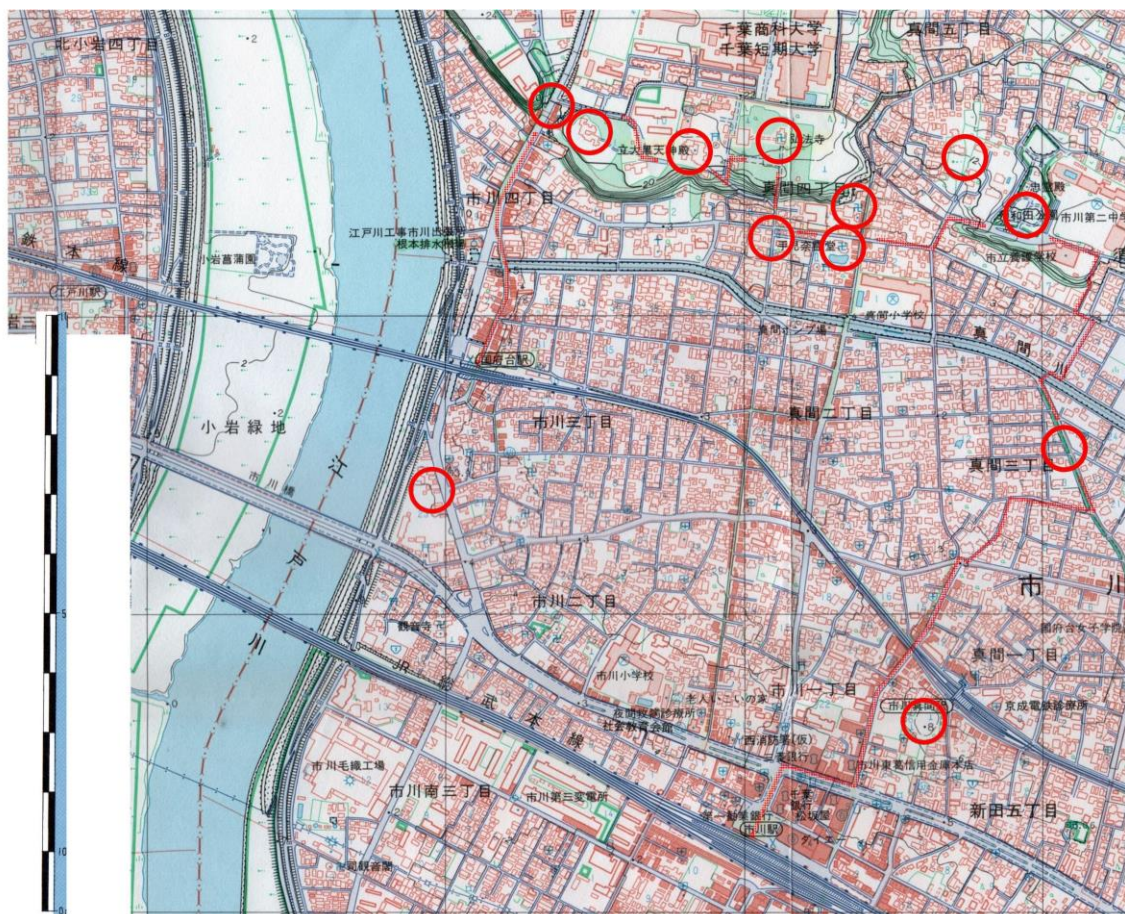
その弘法寺は、行基菩薩や弘法大師の建立伝説がある紅葉の名所として知られた寺で、境内には小林一茶などの句碑と、見事な花を咲かせる伏姫桜と呼ばれるしだれ桜が有名である。弘法寺境内には、その他にも大黒天を祀る大黒堂、鐘楼、仁王門が見どころであるほか、境内北は「萩の里」と呼ばれる眺望の地、南には弘法寺古墳も残る。



木内ギャラリー

**木内ギャラリー**：弘法寺の西、木内ギャラリー辺りから江戸川に向かって下りる坂を切通し坂と呼ぶらしい。文字どおり両側の擁壁が迫る坂だ。その向こうには、国府台地名の起こりとなる国府神社がある。木内ギャラリーは、明治から大正時代に活躍した政治家木内重四郎が、別邸として真間の高台に建築した和洋折衷様式の大正近代建築物。洋館部分のみを移築し、ギャラリーとして公開している。

コースマップ



+\* \* \*+ オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu +\* \* \*+

